

1 自己評価及び外部評価結果

【事業所概要(事業所記入)】

【事業所概要(事業所記入)】			
事業所番号	3290100266		
法人名	株式会社 ひょうま		
事業所名	グループホーム ひなたぼっこ・西川津②		
所在地	〒690-0823 島根県松江市西川津町2663番地2		
自己評価作成日	2021年 9月 14 日	評価結果市町村受理日	令和3年12月6日

※事業所の基本情報は、公表センターページで閲覧してください。(↓このURLをクリック)

基本情報リンク先	http://www.kaigokensaku.mhlw.go.jp/
----------	---

【評価機関概要(評価機関記入)】

評価機関名	株式会社 コスモブレイン
所在地	島根県松江市上乃木7丁目9番16号
訪問調査日	令和3年10月14日

【事業所が特に力を入れている点・アピールしたい点(事業所記入)】

コロナ禍の中で、これまでのように、日々の買い物や外出も難しいですが、その中でも、心身共に入居者様らしく生活していただけるよう、一緒に過ごせる時間に感謝しながら日々生活しています。

【外部評価で確認した事業所の優れている点、工夫点(評価機関記入)】

近くに川があり浸水想定区域内となっているが、中心市街地に近い住宅地にあるため、その他の自然災害には合いにくく、車の騒音等も殆どなく静かな環境にある。隣に障害児の施設があり、季節ごとの行事の際など交流の機会も多かったがコロナで激減。窓越しに挨拶をかわす程度となっている。利用者の平均介護度が3以上で重度の方も多いが、介護度で判断するのではなく、できることを見つけて支援するようにし、個別援助の充実に繋げている。食事やおやつの前には嚥下体操を行い、きざみ食やトロミ等の特別食になっても、口から食べられるようにしている。協力医との関係が良好で、ここでの看取りは行っていないが、ギリギリ迄住み慣れた場所での生活が続けられるようになっている。入所者も職員も入れ替わりがあったようだが、落ち着いてきており、今後も認知症の専門施設としてスキルアップしていただきたい。

V. サービスの成果に関する項目(アウトカム項目) ※項目No.1～55で日頃の取り組みを自己点検したうえで、成果について自己評価します

項 目		取 り 組 み の 成 果 ↓ 該当するものに○印		項 目		取 り 組 み の 成 果 ↓ 該当するものに○印	
56	職員は、利用者の思いや願い、暮らし方の意向を掴んでいる (参考項目:23,24,25)	○	1. ほぼ全ての利用者の 2. 利用者の2/3くらいが 3. 利用者の1/3くらいが 4. ほとんど掴んでいない	63	職員は、家族が困っていること、不安なこと、求めていることをよく聴いており、信頼関係ができている (参考項目:9,10,19)	○	1. ほぼ全ての家族と 2. 家族の2/3くらいと 3. 家族の1/3くらいと 4. ほとんどできていない
57	利用者と職員が、一緒にゆったりと過ごす場面がある (参考項目:18,38)	○	1. 毎日ある 2. 数日に1回程度ある 3. たまにある 4. ほとんどない	64	通いの場やグループホームに馴染みの人や地域の人々が訪ねて来ている (参考項目:2,20)	○	1. ほぼ毎日のように 2. 数日に1回程度 3. たまに 4. ほとんどない
58	利用者は、一人ひとりのペースで暮らしている (参考項目:38)	○	1. ほぼ全ての利用者が 2. 利用者の2/3くらいが 3. 利用者の1/3くらいが 4. ほとんどいない	65	運営推進会議を通して、地域住民や地元の関係者とのつながりが広がったり深まり、事業所の理解者や応援者が増えている (参考項目:4)	○	1. 大いに増えている 2. 少しずつ増えている 3. あまり増えていない 4. 全くいない
59	利用者は、職員が支援することで生き生きした表情や姿がみられている (参考項目:36,37)	○	1. ほぼ全ての利用者が 2. 利用者の2/3くらいが 3. 利用者の1/3くらいが 4. ほとんどいない	66	職員は、生き活きと働けている (参考項目:11,12)	○	1. ほぼ全ての職員が 2. 職員の2/3くらいが 3. 職員の1/3くらいが 4. ほとんどいない
60	利用者は、戸外の行きたいところへ出かけている (参考項目:49)	○	1. ほぼ全ての利用者が 2. 利用者の2/3くらいが 3. 利用者の1/3くらいが 4. ほとんどいない	67	職員から見て、利用者はサービスにおおむね満足していると思う	○	1. ほぼ全ての利用者が 2. 利用者の2/3くらいが 3. 利用者の1/3くらいが 4. ほとんどいない
61	利用者は、健康管理や医療面、安全面で不安なく過ごせている (参考項目:30,31)	○	1. ほぼ全ての利用者が 2. 利用者の2/3くらいが 3. 利用者の1/3くらいが 4. ほとんどいない	68	職員から見て、利用者の家族等はサービスにおおむね満足していると思う	○	1. ほぼ全ての家族等が 2. 家族等の2/3くらいが 3. 家族等の1/3くらいが 4. ほとんどできていない
62	利用者は、その時々状況や要望に応じた柔軟な支援により、安心して暮らせている (参考項目:28)	○	1. ほぼ全ての利用者が 2. 利用者の2/3くらいが 3. 利用者の1/3くらいが 4. ほとんどいない				

自己評価および外部評価結果

〔セル内の改行は、(Altキー)+(Enterキー)です。〕

自己 外部	項目	自己評価	外部評価		
		実践状況	実践状況	次のステップに向けて期待したい内容	
I.理念に基づく運営					
1	(1)	○理念の共有と実践 地域密着型サービスの意義をふまえた事業所理念をつくり、管理者と職員は、その理念を共有して実践につなげている	入社時の研修で理念を説明し、入社後も理念を常に目にするとともに掲示することで、職員と管理者は理念を共有して実践につなげる努力をしている。	新しい職員には各種マニュアルを用いて説明しながら、理念についての考え方を伝えるようにしている。2週間、1か月ごとに面談を行い意思確認すると共に、定期の会議等では職員全員に、繰り返し理念に関わる話をする事で共有に繋げている。	
2	(2)	○事業所と地域とのつきあい 利用者が地域とつながりながら暮らし続けられるよう、事業所自体が地域の一員として日常的に交流している	町内会に入会している。コロナ禍の中これまでのように地域の公民館活動へ出かけたり、隣接する児童施設との交流は難しかったが、回覧板や、日頃の散歩を通して交流を図っている。大雪時には公民館の除雪機を貸していただいた。	地域活動の殆どが中止となり関わりは減っている。隣の児童施設からは窓越しに敬老の日のお祝いを届けてもらっている。ハロウィンにはお返しを考えている。交流の機会は限られているが今後も続けたいと考えている。	
3		○事業所の力を活かした地域貢献 事業所は、実践を通じて積み上げている認知症の人の理解や支援の方法を、地域の人々に向けて活かしている	コロナ禍の中、これまでのように職場体験の受け入れはできなかったが、いずれ貢献できるように内部研修にも力をいれている。		
4	(3)	○運営推進会議を活かした取り組み 運営推進会議では、利用者やサービスの実際、評価への取り組み状況等について報告や話し合いを行い、そこでの意見をサービス向上に活かしている	コロナ禍の中、これまでのようにホームでの運営推進会議を開催することはできなかったが、文書でご家族様や地域の方に普段の様子や取り組みを伝え、返信された意見を日々の活動に活かせるよう努めている。	コロナは落ち着きつつあるが、会議を行う場所の確保もなかなか難しいため、今年度においては文書による開催にしている。民生委員を含めた今までの参加者には意見を求める形で開催し報告も行っている。	
5	(4)	○市町村との連携 市町村担当者と日頃から連絡を密に取り、事業所の実情やケアサービスの取り組みを積極的に伝えながら、協力関係を築くように取り組んでいる	コロナ禍の中、これまでのようにホームでの運営推進会議は開催できなかったが必ず文書にてホームの活動を報告している。また個別のケースを通じて市町村や包括支援センターセンターとの連絡情報交換をしている。	ホームに参集しての運営推進会議はできなかったが、文書で内容を伝え意見を求めている。入所者の家族の相談事に対しても、社協や包括と連携を取りながら解決に向かうよう支援している。	
6	(5)	○身体拘束をしないケアの実践 代表者及び全ての職員が「指定地域密着型サービス指定基準及び指定地域密着型介護予防サービス指定基準における禁止の対象となる具体的な行為」を正しく理解しており、玄関の施錠を含めて身体拘束をしないケアに取り組んでいる	三ヶ月毎に開催している「身体拘束の適正化に向けた委員会」に加え、日ごろから日々のケアの振り返りを行っている。	新人職員に対しては、身体拘束について詳しい説明を行うと共に、定期の委員会等の場では虐待を含めたグレーゾーンについて、具体的な事例を用いて話をしている。チェックリストも活用しケアの振り返りを行うことで、意識を高めている。	
7		○虐待の防止の徹底 管理者や職員は、高齢者虐待防止関連法について学ぶ機会を持ち、利用者の自宅や事業所内での虐待が見過ごされることがないように注意を払い、防止に努めている	虐待につながりかねないグレーゾーンのケアがないかチェックリストをもとに日々のケアを振り返るとともに、職員会議時に共有している。合わせて、地域包括支援センターのオンライン研修に参加し、職員にもフィードバックしている。		

自己	外部	項目	自己評価	外部評価	
			実践状況	実践状況	次のステップに向けて期待したい内容
8		○権利擁護に関する制度の理解と活用 管理者や職員は、日常生活自立支援事業や成年後見制度について学ぶ機会を持ち、個々の必要性を関係者と話し合い、それらを活用できるよう支援している	限られた機会ではあったが、管理者・職員共に外部・内部研修にて意識の向上に努めている。		
9		○契約に関する説明と納得 契約の締結、解約又は改定等の際は、利用者や家族等の不安や疑問点を尋ね、十分な説明を行い理解・納得を図っている	利用者本人や家族への説明を行い、不安や疑問点を話す機会を作り、気軽に相談していただける雰囲気をつくるようにしている。		
10	(6)	○運営に関する利用者、家族等意見の反映 利用者や家族等が意見、要望を管理者や職員ならびに外部者へ表せる機会を設け、それらを運営に反映させている	電話やオンライン面会時やケアプラン作成時に意見を聞き、反映できるよう努めている。また、無記名での家族アンケートを実施し、意見・要望を反映できるよう努めている。	毎年家族会を行い交流を図ってきたが、コロナになり中止している。担当を中心に1人1人の日頃の様子を伝える便りを作成して送っており意見を得る機会としている。写真入りでわかりやすいと好評。	
11	(7)	○運営に関する職員意見の反映 代表者や管理者は、運営に関する職員の意見や提案を聞く機会を設け、反映させている	毎月の職員会議では、意見交換などを行い、また、日ごろから、意見交換をし職員の意見が反映できるよう取り組んでいる。	管理者は業務の間でできるだけ時間を作り、話を聞くようにしている。新人職員に対しては期間を短めに区切り面接を行っている。職員の有給の取得や勤務の変更等にもできるだけ対応するようにしており、ストレスを貯めないで業務出来るように配慮している。	
12		○就業環境の整備 代表者は、管理者や職員個々の努力や実績、勤務状況を把握し、給与水準、労働時間、やりがいなど、各自が向上心を持って働けるよう職場環境・条件の整備に努めている	各職員が、やりがいを持って仕事ができ、個々が役割をもち、責任感や向上心をもてるよう促し、個別での相談にのれる時間をもてるよう努めている。		
13		○職員を育てる取り組み 代表者は、管理者や職員一人ひとりのケアの実際と力量を把握し、法人内外の研修を受ける機会の確保や、働きながらトレーニングしていくことを進めている	日々の業務の中で感じた不安や困り事を聞く機会を設けることができたが、問題解決にはいたらないこともあるので継続していく。個別面談も実施する必要性を感じた。 資格取得に向け、勤務の調整を行っている。		
14		○同業者との交流を通じた向上 代表者は、管理者や職員が同業者と交流する機会を作り、ネットワークづくりや勉強会、相互訪問等の活動を通じて、サービスの質を向上させていく取り組みをしている	これまで参加していた、市内のグループホーム部会への参加ができなかった。		

自己 外部	項目	自己評価	外部評価		
		実践状況	実践状況	次のステップに向けて期待したい内容	
Ⅱ.安心と信頼に向けた関係づくりと支援					
15		○初期に築く本人との信頼関係 サービスを導入する段階で、本人が困っていること、不安なこと、要望等に耳を傾けながら、本人の安心を確保するための関係づくりに努めている	入居前には、生活しておられる自宅や施設に訪問し、直接お会いする機会を設け話を聞いている。また、必要時は体験入居を通して本人の不安が少しでも軽減できるよう努めている。		
16		○初期に築く家族等との信頼関係 サービスを導入する段階で、家族等が困っていること、不安なこと、要望等に耳を傾けながら、関係づくりに努めている	入居相談時には、現在に至るまでの経過等の傾聴に努め、ご家族の要望・不安を共有していけるよう努めている。		
17		○初期対応の見極めと支援 サービスを導入する段階で、本人と家族等が「その時」まず必要としている支援を見極め、他のサービス利用も含めた対応に努めている	相談時に本人やご家族の思い・状況等を確認し改善に向けた支援の提案相談を繰り返す中で、信頼関係を築きながら必要なサービスを行えるようにしている。		
18		○本人と共に過ごし支えあう関係 職員は、本人を介護される一方の立場におかず、暮らしを共にする者同士の関係を築いている	本人のこれまでの生き方に敬意をはらい、多くの事を学ばせていただく姿勢をもちながら、疑似家族になれるよう努めている。		
19		○本人を共に支えあう家族との関係 職員は、家族を支援される一方の立場におかず、本人と家族の絆を大切にしながら、共に本人を支えていく関係を築いている	直接の面会が難しい中、電話での様子報告やオンライン面会時、玄関でのドア越しの面会時にコミュニケーションをとり、日々の様子を家族に伝え、協力をいただいている。		
20	(8)	○馴染みの人や場との関係継続の支援 本人がこれまで大切にしてきた馴染みの人や場所との関係が途切れないよう、支援に努めている	これまでのように頻回にはできなかったが、空き家になっている自宅や感染対策をとったうえで行きつけの理髪店への外出や、墓参り等に行けるよう努めている。	コロナでかなり機会は減っているが、中でも行きつけの理髪店へは何とか出かけている。ユーチューブで地元の昔の風景や祭りなどを見たりして、少しでも懐かしい話ができるようにしている。	
21		○利用者同士の関係の支援 利用者同士の関係を把握し、一人ひとりが孤立せずに利用者同士が関わり合い、支え合えるような支援に努めている	利用者同士が楽しく穏やかに過ごせる環境が作れるように職員が調整役となれるように努めている。		

自己	外部	項目	自己評価	外部評価	
			実践状況	実践状況	次のステップに向けて期待したい内容
22		○関係を断ち切らない取組み サービス利用(契約)が終了しても、これまでの関係性を大切にしながら、必要に応じて本人・家族の経過をフォローし、相談や支援に努めている	以前入居されていた方のご家族様から連絡をいただくケースが複数あり、気にかけていただきありがたく感じた。		
Ⅲ. その人らしい暮らしを続けるためのケアマネジメント					
23	(9)	○思いや意向の把握 一人ひとりの思いや暮らし方の希望、意向の把握に努めている。困難な場合は、本人本位に検討している	利用者一人ひとりのニーズの把握を行い、希望・意向の把握に努めている。また、ご家族とご本人の状況やニーズについての話し合いを行い検討し対応に努めている。	思いを言うことができる人。言えない人の気持ちをどう考えるか。関わりが多い人に対して、関わりが少ない人も気持ちはどうか。など職員がケアの場面で感じたことを共有するように心掛けている。	利用者本人と家族関係者の思いの把握に努めることで、個別援助の充実に繋げていただきたい。
24		○これまでの暮らしの把握 一人ひとりの生活歴や馴染みの暮らし方、生活環境、これまでのサービス利用の経過等の把握に努めている	本人が安心して生活できる環境づくりを努めている。馴染みの道具や写真を家族に持ってきていただきケアに活かしている。		
25		○暮らしの現状の把握 一人ひとりの一日の過ごし方、心身状態、有する力等の現状の把握に努めている	さまざまに変化する利用者本人の状態・気持ちなどから体調を把握するよう努めている。得意なこと分野で力を発揮していただきながら楽しく生活できるよう今後も努めていく必要がある。		
26	(10)	○チームでつくる介護計画とモニタリング 本人がより良く暮らすための課題とケアのあり方について、本人、家族、必要な関係者と話し合い、それぞれの意見やアイデアを反映し、現状に即した介護計画を作成している	本人には日頃の会話の中で、家族からは状況報告の時に思いや意見を聞き、反映するようにしている。職員間では、日々の申し送りや職員会議などで意見交換できる機会をもち、一人ひとりの気づきを共有しサービスに反映させるようにしている。	コロナ禍であり、関係者が集まって担当者会議ができない為、事前に文書や電話で要望を聞き介護計画の作成に繋げている。定期のモニタリングを記録し、計画に反映できるようにしている。	
27		○個別の記録と実践への反映 日々の様子やケアの実践・結果、気づきや工夫を個別記録に記入し、職員間で情報を共有しながら実践や介護計画の見直しに活かしている	日々の気づきを大切に、その都度情報を共有している。日々の記録は、ケアプランを反映したものを記載しながら、取り組みを検討している。		
28		○一人ひとりを支えるための事業所の多機能化 本人や家族の状況、その時々生まれるニーズに対応して、既存のサービスに捉われない、柔軟な支援やサービスの多機能化に取り組んでいる	コロナ禍において、直接ご家族様とご本人様が触れ合うことが難しいため、より一層パイプ役として情報共有に努める必要性を自覚した。本人・家族の状況に応じて通院・送迎等をしたり、必要な支援・相談に応じている。		

自己	外部	項 目	自己評価	外部評価	
			実践状況	実践状況	次のステップに向けて期待したい内容
29		○地域資源との協働 一人ひとりの暮らしを支えている地域資源を把握し、本人が心身の力を発揮しながら安全で豊かな暮らしを楽しむことができるよう支援している	消防署の方に、消防訓練時や現場点検に指導に入っている。		
30	(11)	○かかりつけ医の受診支援 受診は、本人及び家族等の希望を大切に、納得が得られたかかりつけ医と事業所の関係を築きながら、適切な医療を受けられるように支援している	協力病院やこれまでのかかりつけ医との連携がとれている。緊急時等の他病院への搬送時にもスムーズに対応できるよう努めている。必要時には家族にも同行してもらっている。	かかりつけ医を続けることも、協力医に変更することもできるようになっているが、多くの方は往診可能な協力医に変更する方が殆ど。夜間緊急時にも指示が得られるようになっている。	
31		○看護職との協働 介護職は、日常の関わりの中でとらえた情報や気づきを、職場内の看護職や訪問看護師等に伝えて相談し、個々の利用者が適切な受診や看護を受けられるように支援している	看護師は日々の健康管理や医療面での相談・助言・対応を行い、異常を早期に発見し、重篤化しないよう医師や介護職員との連携をはかっている。		
32		○入退院時の医療機関との協働 利用者が入院した際、安心して治療できるように、又、できるだけ早期に退院できるように、病院関係者との情報交換や相談に努めている。あるいは、そうした場合に備えて病院関係者との関係づくりを行っている。	入院時だけでなく入院後も面会・電話連絡を通して、情報交換を図っている。退院時の支援もおこなっている。		
33	(12)	○重度化や終末期に向けた方針の共有と支援 重度化した場合や終末期のあり方について、早い段階から本人・家族等と話し合いを行い、事業所でできることを十分に説明しながら方針を共有し、地域の関係者と共にチームで支援に取り組んでいる	病状の変化は、主治医や家族と相談を密に行うよう努めている。また、その状況を各職員にも共有している。	以前には看取りの経験もあり、現在の入所者も平均介護度3以上と重度化してきているが、協力病院との関係が良好で、ドクターを交えて重度化に向けての話し合いの機会も持たれ、入院もスムーズにできており、家族関係者の安心に繋がっている。	
34		○急変や事故発生時の備え 利用者の急変や事故発生時に備えて、全ての職員は応急手当や初期対応の訓練を定期的に行い、実践力を身に付けている	マニュアルを掲示・確認するとともに、初期対応がスムーズに行えるように努めている。		
35	(13)	○災害対策 火災や地震、水害等の災害時に、昼夜を問わず利用者が避難できる方法を全職員が身につけるとともに、地域との協力体制を築いている	マニュアルをもとに定期的に訓練や研修（行政指示の内容の共有）を行っている。	コロナの為消防署の立ち合いはなかったが指示を得て独自に訓練を実施。浸水想定区域内であり、要配慮者利用施設になっていることから、その訓練も必要になっているため、主に啓発の為に訓練も実施している。	

自己	外部	項 目	自己評価	外部評価	
			実践状況	実践状況	次のステップに向けて期待したい内容
Ⅳ. その人らしい暮らしを続けるための日々の支援					
36	(14)	○一人ひとりの尊重とプライバシーの確保 一人ひとりの人格を尊重し、誇りやプライバシーを損ねない言葉かけや対応をしている	援助が必要な時も、本人の気持ちを大切に した対応をしている。声掛けや介助もさりげ なく行うよう努めている。家族にも本人が安 心できる声掛けをきいたり、協力をえてい る。	ケアの中での声がけの仕方、トーンやタイミ ングなどに注意すると共に、自分に置き換え て考えるようにしている。経験の少ない職員 には高齢者の疑似体験も行った。	
37		○利用者の希望の表出や自己決定の支援 日常生活の中で本人が思いや希望を表したり、自 己決定できるように働きかけている	自己決定できるよう、オープンクエスチョンを 心掛けている。声掛けのトーンも気を付けて いる。		
38		○日々のその人らしい暮らし 職員側の決まりや都合を優先するのではなく、一 人ひとりのペースを大切にし、その日をどのよう に過ごしたいか、希望にそって支援している	おおむね利用者のペースで過ごしていただい ているが、時々職員の都合で日課を変更してしま うことがあった。家事や活動もその時の気持ちや 身体状況を把握し、本人のペースでできるような 声掛けや援助に努めていく必要がある。		
39		○身だしなみやおしゃれの支援 その人らしい身だしなみやおしゃれができるように 支援している	季節に合った服を整え、本人が好む服を一 緒に選んだり、髪型を工夫したり、化粧も行 うよう努めている。また、感染対策を徹底し た上で馴染みの理髪店や移動理美容を利用 し、その結果をご家族様にも報告している		
40	(15)	○食事を楽しむことのできる支援 食事が楽しみなものになるよう、一人ひとりの好み や力を活かしながら、利用者と職員と一緒に準備 や食事、片付けをしている	これまでのように買い物と一緒に行くことはでき ないが、調理・盛り付け・片付けも利用者と一緒に 行い、同じテーブルを囲んで楽しく食事ができ るよう努めている。また、誕生会ではその方の好 みを聞きメニューに反映している。	重度の人が多くなり調理の下準備等できる人は少 なくなったが、下ごしらえ、盛り付け、味見などでき ることに参加してもらうようにしている。月の半分 は調理専門の職員を雇用。きざみ、特別食、トロミ 等にも対応している。	
41		○栄養摂取や水分確保の支援 食べる量や栄養バランス、水分量が一日を通じて 確保できるよう、一人ひとりの状態や力、習慣に 応じた支援をしている	メニュー表をつくり同じメニューにならないよ うにしている。食事形態では外注品も取り入 れている。水分も好みを聞きながらいろい ろなものをこまめに提供し、一日の水分量も記 録している。		
42		○口腔内の清潔保持 口の中の汚れや臭いが生じないよう、毎食後、一 人ひとりの口腔状態や本人の力に応じた口腔ケ アをしている	口腔体操をし、嚥下機能低下を防ぐよう努 めている。毎食後の口腔ケアを徹底しニー ズに合わせて援助している。必要な方は歯 科受診をしている。		

自己	外部	項 目	自己評価	外部評価	
			実践状況	実践状況	次のステップに向けて期待したい内容
43	(16)	○排泄の自立支援 排泄の失敗やおむつの使用を減らし、一人ひとりの力や排泄のパターン、習慣を活かして、トイレでの排泄や排泄の自立にむけた支援を行っている	定時の声掛けや動作・表情をよみとり、できる限りトイレでの排泄に向けた支援を行っている。	重度の方でも、紙おむつにはできるだけしないように、サイドがマジックテープでパンツのように使えるタイプを使用し、日中はトイレで排泄できるようにしている。尿量に合わせてパットを使用し夜間の安眠に繋げるようにしている。	
44		○便秘の予防と対応 便秘の原因や及ぼす影響を理解し、飲食物の工夫や運動への働きかけ等、個々に応じた予防に取り組んでいる	自然排便を促すために十分な食事量・水分量を確保するよう努めている。食材も工夫している。		
45	(17)	○入浴を楽しむことができる支援 一人ひとりの希望やタイミングに合わせて入浴を楽しめるように、職員の都合で曜日や時間帯を決めず、個々にそった支援をしている	午後に声掛けをしながら行っている。その際、無理強いせず、希望やタイミングを見ながら支援している。	やや大きめの家庭浴槽の為、重度で中に入れない場合はシャワー浴で対応。週2回午後の時間に実施。入浴拒否気味の方には、声掛けを工夫するなどゆっくりくつろげるように配慮している。	
46		○安眠や休息の支援 一人ひとりの生活習慣やその時々状況に応じて、休息したり、安心して気持ちよく眠れるよう支援している	ニーズに沿った食後の休息や日中の活動を通して夜間に気持ちよく眠れるよう努めている。		
47		○服薬支援 一人ひとりが使用している薬の目的や副作用、用法や用量について理解しており、服薬の支援と症状の変化の確認に努めている	服薬内容が変更になった際は職員間で共有するだけでなく、家族へもお伝えしている。		
48		○役割、楽しみごとの支援 張り合いや喜びのある日々を過ごせるように、一人ひとりの生活歴や力を活かした役割、嗜好品、楽しみごと、気分転換等の支援をしている	自宅から馴染みの物を持ってきていただくなど、居室の環境作りに努めている。また、本人の得意分野を把握し力を発揮してもらえよう努めている。個別援助にて、気分転換を支援している。		
49	(18)	○日常的な外出支援 一人ひとりのその日の希望にそって、戸外に出かけられるよう支援に努めている。又、普段は行けないような場所でも、本人の希望を把握し、家族や地域の人々と協力しながら出かけられるように支援している	これまでのような日々の買い物や観光地への外出は難しかったが、天候に合わせた散歩やドライブを行った。	コロナでかなり少なくなっているが、人の行かない場所、少ない所を選んでドライブしたり、近所を散歩したり、ウッドデッキでお茶したりして、外気に触れ合う機会を作り、少しでも気分転換できるようにしている。	

自己	外部	項 目	自己評価	外部評価	
			実践状況	実践状況	次のステップに向けて期待したい内容
50		○お金の所持や使うことの支援 職員は、本人がお金を持つことの大切さを理解しており、一人ひとりの希望や力に応じて、お金を所持したり使えるように支援している	金銭管理は、大半の方が難しくなっておられ、本人の希望商品はホームで立替で購入していることがほとんどである。必要に応じて家族に協力を得ている。		
51		○電話や手紙の支援 家族や大切な人に本人自らが電話をしたり、手紙のやり取りができるように支援をしている	日常的に電話や手紙が出せるように支援している。携帯電話をもっておられる方の支援をしている。		
52	(19)	○居心地のよい共用空間づくり 共用の空間(玄関、廊下、居間、台所、食堂、浴室、トイレ等)が、利用者にとって不快や混乱をまねくような刺激(音、光、色、広さ、温度など)がないように配慮し、生活感や季節感を採り入れて、居心地よく過ごせるような工夫をしている	利用者ごとにテーブルやいすの高さに合わせている。また、花を飾ったり、食材の準備を通して季節を感じてもらえるよう努めている。	幹線道路から入った場所で住宅地の中にあるため、騒音等は無く静か。町中で季節の変化などは感じにくいこともあり、花を飾ったり壁の掲示物に配慮している。中央に両ユニットの玄関があり、ダイルームから廊下に続いて奥行がある。歩行訓練が行われている。	
53		○共用空間における一人ひとりの居場所づくり 共用空間の中で、独りになれたり、気の合った利用者同士で思い思いに過ごせるような居場所の工夫をしている	廊下やホール・デッキにソファや椅子を置き、一人過ごしたり、仲の良い方同士がくつろげる環境作りに努めている。		
54	(20)	○居心地よく過ごせる居室の配慮 居室あるいは泊まりの部屋は、本人や家族と相談しながら、使い慣れたものや好みのものを活かし、本人が居心地よく過ごせるような工夫をしている	自宅で使い慣れた家具等を置いたり、写真を飾ったりすることで居心地の良い環境作りに努めている。	大き目のクローゼットがあり収納には充分。テレビや小物入れ、小タンス等家から持ち込まれているが、使い慣れた物が送り込まれたことに失望感を持った方があり、個々に合わせた対応をとることとしている。	
55		○一人ひとりの力を活かした安全な環境づくり 建物内部は一人ひとりの「できること」「わかること」を活かして、安全かつできるだけ自立した生活が送れるように工夫している	各居室前に名札や暖簾をかけ、わかりやすく配慮している。トイレやお風呂場なども同様にし、自立した生活が送れるよう工夫している。		